

発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21
 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸 男 先生 校務局
 題字 三浦賢一 高等 事務
 編集 福島東 同窓 会 印
 印刷 同窓 会 妻 印

「絆」の有効活用

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



いよいよ福島東高校創立三〇周年まで一年をきり、その記念事業が九月より開催されています。各委員の方々に何度も学校に足を運んでいただき、成功に向けての協議を進めていただいております。

同窓会では、この会報を通じて同窓生の方々に「今の東高」をお伝えしています。同窓会の活動はもとより、生徒の進路状況、部活動の活躍情報、先生方の動向等、県内でも毎年これだ

けの母校情報を発信できて同窓会はないのではないかと自負しております。これもひとえに、東高校同窓会事務局の先生方のお陰に他なりません。授業、課外、部活動、生徒指導という本来の業務に加え、同窓会に関する業務まで積極的に取り組んでいただいていることが、この情報発信を可能にしているのです。この事務局の先生方はほとんどが東高校の同窓生であります。東高で学び、その教えを自分の糧とし後輩たちを育み、同窓生に発信する。まさに、「絆」で繋がっています。

私自身の周りを見渡しても、「実は私も東高校の卒業生なんです。」という方によくお会いします。この繋がりは思った以上に強さを発揮し、その後の会話に幅が出ますし、名刺交換まで発展します。その繋がりを私に渡って最大限に活用できれば、「絆」の有効活用となるのではないのでしょうか。仕事では多少無理を言ってお納品してもらえますし、歯が痛み出せば、終了時間ぎりぎりでも快く診察をしてくれ、懇切丁寧に説明をし、私のだらしないさを遠慮なく指摘してくれたり、愛犬を診察に連れて行けば、聞きにくいことでも平気で聞くことができます。我々一期生が今年四十五歳であり、昨年度卒業した後輩は十九歳です。その大きな年の差を簡単に埋めてくれるのが同窓生の「絆」といふことになりました。実は私も今の職場で二十三期生と一緒に働いています。この方は女子では七期生になるのですが、後輩というだけで何となく仕事を頼みやすい雰囲気になってしまします。(勿論、この状況は私だけの勝手な感じ方であり、その方にとっては迷惑極ま

りないと感じているかもしれないが…)それだけ、皆さんの周りでも同窓生の「絆」は少なからず、いい影響を及ぼしているのではないのでしょうか。私は、同窓生の方々に、この「絆」を最大限に有効活用してもらいたいと思っています。我々のように初期の同窓生はその時代に適応する常に新鮮な情報が必要ですし、それに対応する柔軟性も持ち合わせなければいけません。卒業して間もない同窓生は、自分の進路や人生について我々に多くの情報提供を求めればいいのです。そのネットワークの構築こそが、今後の同窓会の役割なのかもしれません。この会報もその一役を担っていければと思っています。まずは、すでに始まっている創立三〇周年記念事業を成功させるために、この「絆」を生かしているところですか。しかし、残念ながら事業に必要な同窓生からの協賛状況はあまり思わしくありません。

再度お願いしますが、この記念事業は東高校の歴史を刻むために非常に意義のある行事と考えています。そのためには、皆さんひとりひとりのご協力が必要であるということを、ご理解いただきたいと思います。

今後同窓会活動報告だけでなく、記念行事に向けた詳細な情報も発信していきますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願いたします。

最後に、今回の第六号発刊にあたりましては、多くの方々から執筆等、ご協力をいただいております。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいているものと真摯に受け止め、活動を盛り上げていきたいと思っております。

今後、たくさん同窓生と出会い、多くの刺激を与えてもらえることを楽しみにしています。



30周年記念事業 一吹奏楽部へ楽器贈呈 4月8日一

東高らしさ

福島東高等学校長 平岩 典男



同窓生の皆様には、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

今年、福島東高校は節目となる創立三〇年目を迎えました。校訓「創造」、「協調」、「躍進」のもと、生徒、教職員が一丸となって努力を継続したことに由り、進学や部活動等に輝かしい実績を残しております。今年四月に着任しましたが、本校の更なる充実・発展のために専心努力する覚悟でありますので、どうぞよろしく願います。

さて、七月二十八日、二十九日の二日間、東高見学会が実施されました。この二日間で、約一三〇〇名の中学生が参加しました。見学会の内容は、全体会（学校説明、吹奏楽・合唱・ダンス部の発表）、分科会（各部等の体験発表）、学校（部活動）見学等からなります。二日間かけて行う点、千名を超える中学

生が参加する点など、県内でも本校だけではないかと思えます。それだけ中学生の本校に対する関心が高い証拠でもあります。

参加してくれた中学生にアンケートをとっていますが、その中に「学校見学で学校の様子を実際に見ての率直な感想はどうですか。一つ選んでください。」という質問項目があります。「活気があった」「楽しそうだった」という項目を選択した中学生は、二つの項目を合わせると実に九割以上にのぼります。また、全体を通しての感想を自由に記述してもらいましたが、回答は実に七四二項目に及ぶものでした。回答は本校に対して良い印象を持つ内容が大半であります。その中から代表的なものを以下に列挙します。「東高は全体が何かの目標に向かって頑張っているという熱意があることがわかった。」「部活にしても勉強にしても東高生はすごく努力していた。」「東高は他の学校よりも勉強がきついののに、部活でいい成績を出しているのがとてもすごい。」「東高の学習・

部活の楽しさ、大変さがよくわかった。」「東高に入って夢をかなえたいと思った。」等々。回答してくれた内容は、本校の校是である「文武両道」に関するものが大半であり、半日ではあるが東高校の雰囲気を感じてくれたようです。

本校で面々と受け継がれている「文武両道」。ここ五年間の部活動加入率は、八六%、八五%、八七%、八八%と推移し、今年度は九一%となっております。（調査月日は五月一日現在）三年生の部活動加入率も高く、ここ五年間では、七五%、八三%となっております。部活動加入率と大学進学実績に何らかの相関関係はあるのでしょうか。平成二〇年度卒業生の国立大学合格者数は、国立一三八名、公立二七名、計一六五名でありました。この数は歴代二番目タイであるとともに、東北大合格者がある過去最高の一〇名、難関大の一橋大、大阪大への合格者が出るなど、質量ともに大変すばらしい結果を残してくれたのです。因みにこの学年の三年次の部活動加入率は七九%。奇しくも歴代一番目の一七一名を残した平成一七年度卒業生も七九%でした。この七九%という数値は三年生の部活動加入率の中では高

い方に位置しています。部活で培った集中力、忍耐力等の精神面の強さを、受験勉強に生かした証でもあります。

今年度の部活動ですが、運動部の大半が地区予選を突破し、県大会に出場しました。奈良県で開催された全国インターハイに出場する部がなかったことは、大変残念でありました。しかし、いずれの部も良く健闘してくれました。各大会の結果については別項に記載されているとおりです。今、部活動は、三年生から二年生・一年生へシフトし、運動部についてはいよいよ八月下旬から新人戦が始まっています。

福島東高校の特色、東高らしさは何かと問われれば、これまでも記したように「文武両道」です。しかし、学習と部活動の両立を達成するのは容易なことではありません。時間的制約もありませんが、学習、部活動ともに目標設定が鍵になります。部活動が具体的な目標を立てやすいのに対し、一方の学習は目標を設定することがなかなか難しいと言えます。「大学に入りたい。」「将来 になりたい。」等、自分の将来にかかわることなのですが、具体的な進路目標を設定することは容易なことでは

はないのです。この点で、同窓生の皆さんの活躍は在校生にとって励みとなりますし、刺激にもなります。また、同窓生の協力を得て、「卒業生の話を聞く」、「さまざまな職業人に聞く」等の行事を行っています。生徒の進路意識の啓発には有効であります。自らの目標が定まれば、やりがいが出ます。自らこつこつと努力することも苦でなくなります。そして努力を継続した者のみにチャンスの風が吹くことも確かなことです。同窓生の皆様が「文武両道」を追い求めたように、在校生も、そしてこれから本校を目指す中学生にもしっかりと東高らしさは受け継がれていかなければならないものと考えます。

創立三〇周年記念式典を来年に控え、同窓会とPTAが連携協力して、実行委員会として専門委員会（総務・募金・式典・出版・事業）を開催し、記念事業の準備を進めていただいている所です。創立三〇周年は本校にとって大きな節目であり、更なる飛躍の契機ともなります。同窓生の皆様には創立三〇周年の機運を盛り上げていただくとともに、今後ともご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。

2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成20年度 歳入歳出決算書

歳入金額 3,319,537円
歳出金額 3,210,820円
差引残額 108,717円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

平成21年度 歳入歳出予算書

歳入金額 2,721,000円
歳出金額 2,721,000円
差引残額 0円

Table with 7 columns: 項目, 21年度予算額, 20年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

Table with 7 columns: 項目(科目), 21年度予算額, 20年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

福島東高等学校

創立三〇周年記念行事スタート

九月四日(金)の福島東高等学校の公開文化祭、第三〇回「東校祭」の開始式で、「創立三〇周年記念行事開始宣言」が行われました。

創立三〇周年を迎えた我が母校福島東高校は、来年の記念式典(平成二十二年六月二十五日 福島県文化センター)に向けて三〇周年行事を次々と実施していきます。

「様々な職業人に聞く」の同窓生による講師、演奏会・発表会支援、同窓生の寄付による部

活動、教育活動支援等々、同窓会が三〇周年記念行事に大きく関わりながら学校を盛り上げていこうとしています。

今まで以上に、同窓生の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

今までも実行委員会では活発な議論が行われ、多くの企画が決定されてきました。

(吹奏楽部への楽器贈呈、進路指導支援システムの導入、グランド整備、記念誌、記念品、等)

創立30周年記念行事の今後の日程

9月4・5日	東校祭・吹奏学部楽器贈呈式
9月14日	「様々な職業人に聞く」同窓生による講師
9月15日	第6回実行委員会
11月18日	第7回実行委員会
【平成21年】	
2月10日	第8回実行委員会
2月24日	「桜美展」支援
4月	「桜梅戦」支援
5月	「吹奏楽部定期演奏会」支援
5月	第9回実行委員会
6月	第10回実行委員会
6月24日	「様々な職業人に聞く」同窓生による講師
6月25日	創立30周年記念式典・記念講演(樋口達哉氏) 祝賀会
7月	「合唱部定期演奏会」支援
8月	第11回実行委員会(最終)

「東高応援基金」

協賛者名

()は卒業期

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになれば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東校会から、部活動支援のためという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

木村浩一(1)西山尚利(1)尾形幸男(1)橋内重康(1)山田正明(1)佐藤武士(1)高橋宏昌(1)大平睦生(1)菊池

- 浩二(1)久能靖(1)後藤尚生(1)秋葉直樹(2)阿部真人(2)斎藤靖(2)真柴毅(2)阿部浩行(2)菅野浩典(2)穴戸佐寿(2)永井貴博(2)金子與志人(3)鈴木友彦(3)蒲倉達也(3)紺野信幸(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)松本重明(4)峯智和(4)佐藤真一(4)古閑邦彦(4)永澤憲一(5)渡辺伸克(5)渡辺幹男(5)泉康夫(5)小野友史(5)星秀明(5)上村秀人(5)大斎克彦(5)伊藤隆(5)渡辺裕哉(5)菅野晃弘(5)佐藤利久(6)山川毅(6)菊地英樹(6)福地誠志(6)湯田宏信(6)穴戸敢一(7)渡部泰史(7)角田純也(7)大波哲也(7)森康洋(7)河原慎治(8)板橋孝行(8)小林孝雄(8)熊坂隆(8)東城幸治(8)伊藤宏之(9)立花純孝(9)加藤芳史(10)熊坂隆行(10)高橋豊和(10)三浦和幸(10)五十嵐潤(10)佐藤智頭(11)玉手敦(11)阿部樹一郎(11)宮崎康弘(11)佐藤幸樹(14)松野哲郎(14)齋藤史隆(14)木幡健一(14)菅野元樹(15)高橋健太郎(15)齋藤訓朗(15)嶋原智宏(17)松野大悟(17)上杉光成(17)渡邊夏未(18)谷内雅一(18)齋藤貴裕(18)片平美代子(19)高橋歩(19)渡邊祝子(19)小野勝彦(19)蓬田史徳(19)齊藤幸平(19)大橋喜隆(19)三浦利矢子(20)二瓶真人(20)野澤亮一郎(20)羽田真幸(20)阿部真治(20)岡野朋子(20)後藤あゆみ(21)齋藤奈津子(21)齋藤広彰(21)佐野有紀(21)齊藤拓野(21)鈴木恭平(21)野津智華子(21)伊達孝浩(21)山本拓也(21)佐藤亜佑美(22)佐藤宏樹(22)竹内大崇(22)

- 菅野真奈美(22)矢吹友紀(22)阿部健治(22)菅野健(22)斎藤有佐(22)塩谷卓也(22)浅野武志(22)渡邊亮(22)笠間範子(23)甚野清英(23)矢館実典(23)新関拓也(23)鈴木洋介(23)高橋政哉(23)大原卓文(23)伊達孝典(23)阿部尚徳(23)菅野数由(24)高野未咲(24)長澤理恵(24)池澤竹葉(24)高橋舞(24)佐々木宏樹(24)渡邊公偉(24)丹治佑樹(24)國分優佳(24)紺野雄太(24)三瓶智博(24)齋藤智也(25)加藤千裕(25)阿部隆徳(25)佐藤秀樹(25)高橋由紀(25)坪谷洋平(25)宮本圭太(25)齋藤真木(25)引地昭裕(25)菅野拓也(25)佐藤貴裕(25)菅野玲(25)斎藤大地(25)長沼舞(26)橋本宏貴(26)三浦祐亮(26)尾形早紀(26)千代間祥之(26)八巻康平(26)佐藤みさと(26)渡邊仁哉(26)紺野友里絵(26)佐藤直樹(26)葛岡悠(26)田口太郎(26)渡辺洋輔(26)佐藤裕次郎(26)馬上泰彰(26)

平成二十年四月一日から平成二十一年三月三十日までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188

卒業年度	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年
学級数	9	9	9	9	9	8	8	9	9
卒業者数	(423)	(431)	(421)	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)
国公立大	88	109	96	109	85	109	113	114	145
私立大	278	291	333	299	418	413	327	313	311

卒業年度	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年	26期 H19年	27期 H20年
学級数	9	9	9	9	8	8	8	8	8
卒業者数	(362)	(350)	(358)	(359)	(314)	(316)	(318)	(313)	(308)
国公立大	150	115	165	153	154	171	126	139	165
私立大	346	349	247	248	305	322	329	351	240

(表1)

大学別合格者数 (平成19・18・17年度入試)

	大学名	平成20年度生	平成19年度生	平成18年度生
国立大	帯広畜産大	1	0	0
	室蘭工業大	1	0	0
	弘前大	1	1	0
	岩手大	3	1	1
	東北大	10	2	7
	宮城教育大	3	3	2
	秋田大	6	2	2
	山形大	15	14	13
	福島大	51	44	31
	茨城大	11	10	7
	筑波大	3	0	2
	宇都宮大	8	5	10
	埼玉大	9	9	10
	千葉大	2	1	2
	東京学芸大	1	1	1
	東京海洋大	0	0	1
	一橋大	1	0	0
	横浜国立大	1	1	1
	新潟大	6	3	6
	上越教育大	0	0	0
	富山大	2	1	0
	静岡大	1	2	1
	大阪大	1	0	0
	岩手県立大	0	3	1
	宮城大	5	4	3
	秋田県立大	1	2	2
	国際教養大	2	1	0
会津大	1	1	5	
県立医大(看護)	3	6	4	
高崎経済大	3	1	8	
埼玉県立大	0	2	0	
首都大学東京	0	7	0	
横浜市立大	0	1	1	
神奈川県立保福大	2	0	0	
都留文科大	0	1	1	
その他	11	10	4	
計		165	139	126

	大学名	平成20年度生	平成19年度生	平成18年度生
私立大	東北学院大	43	58	44
	東北福祉大	16	7	16
	東北薬科大	3	9	4
	獨協大	1	2	4
	文教大	0	8	2
	青山学院大	4	3	2
	学習院大	1	2	1
	慶応義塾大	0	0	1
	國學院大	3	2	1
	国土館大	0	2	11
	駒澤大	4	7	8
	芝浦工大	6	7	8
	成蹊大	1	3	3
	成城大	2	1	1
	専修大	3	14	5
	大東文化大	2	4	10
	拓殖大	2	1	1
	中央大	4	8	4
	東海大	4	3	3
	東京女子大	0	1	0
	東京電機大	2	3	2
	東京農業大	4	5	10
	東京理科大	3	1	3
	東洋大	7	12	12
	日本大	23	25	20
	法政大	5	5	10
	武蔵大	1	2	3
武蔵工大	0	3	3	
明治大	4	5	8	
明治学院大	0	2	0	
立教大	1	2	1	
早稲田大	0	0	0	
神奈川大	5	12	14	
立命館大	0	0	1	
その他	86	132	116	
計		240	351	329

(表2)

進路



進路指導主事
梅宮 康弘

表1からわかる通り、平成二十一年度入試(二七期生)の国公立大学の合格者数は過去第二位であり、かつ、創立以来初めて東北大学の合格者数二桁、一橋大・大阪大外国語学部に一人ずつ合格など、輝かしい成績を残すことができた。私立大学では、合格者数を減

らしたが、国公立志向が強くなり、かつ不況の影響からか私立の受験校数が例年よりかなり少なかったことが原因と考えられる。絞った受験であるので、合格率は高かった。このような素晴らしい結果が出たのも、全職員が三年生の進路実現を図るといふ東高の伝統に加え、二四期生を担任され実績を残された先生方が中心となり、よりよい方策を実践され、生徒諸君がそれを信じてついてきた結果と思われる。次年度以降も、よき伝統を引き継がれるべく、邁進していきたいと思う。

27期総括



27期学年主任

安田 徹

1 「カーペ・ディエム」

ラテン語「CARPE DIEM」とは二十七日の学年通信のタイトルです。「明日をつかめ！」という意味です。二十七日生と私たち学年団と一緒に新しい明日をつかもうという思いを込めてこのタイトルを付けました。「CARPE DIEM」第一号で「当たり前のことを当たり前にやる」と、「この三年間で一つでも多くの感動を味わおう」と呼びかけ二十七日はスタートしました。

2 二十七日生一年生のあの時入学してから十日後、生徒も教員も何も分からないままのオリエンテーション合宿。三月に二十四期生を送り出したばかりの私は二十七日生の姿を見て唖然としました。まさしく烏合の衆。二十四期生と二十七日生、大人と子供……。その差の開きにとまどいました。と同時に本校生は三年間で驚くほど人間的に成長することを実感しました。二十七日生も必ず……。と決意を新たにしました。

「学年の成否は一年生の一学期までで決まる」という先輩の教えの通り、時間の徹底に終始した合宿でした。また、東高生なのだからこれぐらいは「できるだろう」、「知っているだろう」と考えるのは危険だということにも気がつきました。「具体的に指示をしないと動かない」ということを認識できたことも収穫でした。

翌週から本格的に動き出しました。八時十分登校を定着させるために学年団全員で生徒たちの登校を見守りました。今振り返れば、暑い日も寒い日も廊下に立ち続けた三年間でした。おそらく生徒達もあきれられるほど、粘り強く徹底して立ち続けました。なんとかが七月までにはほとんどの生徒が落ち着いて朝自習に取り組むことができるようになりました。廊下に立ち続けることによつて生徒との触れ合いが多くなり、生徒と私たち教員との距離がなくなっていきました。さらに担任同士も廊下に立ちながらよく話し、その距離がなくなつていったように思います。

3 二十七日生二年生のあの時二年生はたるみの学年。朝自習の確認テストの平均点を公表し一位のクラスにはトロフィーを

与えました。子供じみた試みでしたが、各担任の先生方も勝負にこだわっていただき盛り上げてもらいました。沖繩の修学旅行。「思いつき楽しもう」をモットーにいい思い出を作ることでできました。生徒達は五分前行動が当たり前になるほどに成長していたので私たちがとても楽しい旅行でした。ただ心残りなのは、学年主任の私が沖繩の夕日に見とれ、感動のあまり打ち合わせの時間を忘れてしまったのが唯一の反省点でした。

4 二十七日生三年生のあの時福島大学の白石豊先生が、「自信は勝つた後、良い点を取つた後につけるのではなく、試合の前、試験の前につけるものである」と話していました。我々が生徒にしてあげられることは、受験に対する不安を取り除き、生徒一人一人に自信を持たせることでした。学年集会やHRを通して、一年間の流れを提示すると共に、翌月にはどのような心理になるのか、どう対応すべきなのか具体的に指示を出しました。さらにセンター試験の前に自信をつけさせるために二期からは七時四十分からセンター試験演習を始めました。この時も遅刻は許さないという共通認識のもと、学年団はまた廊下に

立ち続けました。これはセンター試験対策でしたが、規則正しい生活を維持することも目的の一つでした。通常、生徒はこの時期から受験勉強に拍車がかかり、生活が乱れる者も出てきます。しかし、この試みのおかげでセンター試験当日と同じ生活を、五ヶ月前から習慣づけることができました。

5 課題

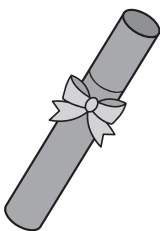
入学当初から学校に登校できない生徒や自分のイメージと現実との乖離に悩み頑張りきれない者が存在するなど、本校においても生徒の多様化が進みました。今後、入学以前に情報を収集しそれなりの対応が必要になってくると思います。また今まで以上に養護教諭、カウンセラーと学年の連携が重要になってくると思います。

次に「自分の思うようにしたい」と考える生徒・保護者が多くなり、学校の方針に理解を示さない例が見られました。二期後半から受験校を決める時期に、生徒のわがままを許すと学年全体が総崩れになってしまふ危険性があります。二十七日はなんとか「学年力」で乗り切ることができましたが、相当エネルギーを使いました。入学段階から生徒と学年団との信頼関係

を構築していくことが大切です。

6 最後

二十七日生は入学当初、学業も部活動も決して力のある学年ではありませんでした。しかし、生徒たちは愚直にただひたすら目標にむかって努力しました。よく頑張ったと思います。しかし、センター試験一日目が終わって会場から出てきた生徒たちの表情と言葉には、いつも明るい私たち学年団も暗くならざるを得ませんでした。この逆境を乗り越えられたのは生徒たちの力もありますが、それ以上に保護者の皆様そして本校全教職員の皆様のおかげです。本校が結果を出すためには当該学年の「学年力」はもちろんです。ただ、それだけでは不十分です。どうしても「学校力」が必要です。学年を学校全体で支えようという思いがある限り本校は結果を出し続けることができると思います。三年間ご支援ご協力本当に有り難うございました。今後とも二十七日生を宜しくお願い致します。



平成20年度 部活動報告

運動部

陸上競技部

県高等学校体育大会
県北地区予選会

男子 100m 第1位 山田修平
第2位 丹治啓太
第3位 齋藤 啓

200m 第1位 山田修平
第2位 蓬田両健
第3位 丹治啓太

400m 第1位 蓬田両健
第2位 半澤 諒

800m 第1位 佐久間大成
第2位 佐久間大成

1500m 第1位 佐久間大成
第2位 佐久間大成

3000m 第1位 佐久間大成
第2位 佐久間大成

4x100mR 第1位 安齋嘉章
第2位 安齋嘉章

1x4x100mR 第1位 安齋嘉章
第2位 安齋嘉章

1x4x100mR 第1位 安齋嘉章
第2位 安齋嘉章

3000mSC 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
第2位 高橋 亮

樋口・室井・紺野・石井
東北高等学校陸上競技大会

男子 100m 第7位 山田修平
4x100mR 準決勝
杉山・山田・丹治・齋藤

4x400mR 準決勝
遠藤・蓬田・丹治・山田

七種競技 第14位 橋本みなみ
県総合体育大会

県北地区予選会
男子 100m 第1位 野地貴仁
第2位 野地貴仁

400m 第2位 半澤 諒
800m 第3位 佐久間大成

1000m 第1位 佐久間大成
5000m 第1位 濱田光貴

10000m 第1位 濱田光貴
3000mSC 第1位 高橋 亮

4x100mR 第1位 高橋 亮
4x100mR 第2位 安齋嘉章

3000m 第2位 安齋嘉章
B走幅跳 第3位 森 洋介

B走幅跳 第3位 森 洋介
女子 走高跳 第2位 室井 麗

走高跳 第2位 室井 麗
県総合体育大会

県選権
男子 4x100mR 第8位
高橋・野地・森・齋藤

4x100mR 第8位
B100m 第1位 齋藤 啓

B100m 第1位 齋藤 啓
B300m 第8位 安齋嘉章

B300m 第8位 安齋嘉章
県高等学校新人陸上競技大会

県北地区予選会
男子 100m 第1位 齋藤 啓

100m 第1位 齋藤 啓
200m 第1位 齋藤 啓

200m 第1位 齋藤 啓
400mH 第2位 濱田光貴

400mH 第2位 濱田光貴
3000mSC 第3位 齋藤 啓

4x100mR 第3位 安齋嘉章
4x400mR 第1位
トトラック総合第1位

走高跳 第3位 阿部晃大
女子 走高跳 第1位 室井 麗

走高跳 第1位 室井 麗
県高等学校新人陸上競技大会

男子 100m 第3位 齋藤 啓
3000mSC 第3位 高橋 亮

100m 第3位 齋藤 啓
4x100mR 第5位 安齋嘉章

4x100mR 第5位 安齋嘉章
高橋・野地・地引・齋藤

走高跳 第2位 室井 麗
東北高等学校新人陸上競技大会

男子 100m 予選 齋藤 啓
3000mSC 第9位 高橋 亮

100m 予選 齋藤 啓
国民体育大会

男子 100m 準決勝 齋藤 啓
4x100mR 第7位 齋藤 啓

100m 準決勝 齋藤 啓
福島選抜
齋藤・田嶋・梶・佐藤

4x100mR 第7位 齋藤 啓
野球部

春季東北地区高等学校野球福
島大会東北地区予選

1回戦 福島北10 7
2回戦 梁川11 4

3回戦 安達6 2
準決勝 川俣12 4

決勝 福島12 2
春季東北地区高等学校野球福
島大会

1回戦 いわき海星6 2
2回戦 x平工業5 6

2回戦 x平工業5 6
春季東北支部高校野球選手権
大会

2回戦 福島成蹊10 2
3回戦 x福島6 7

3回戦 x福島6 7
全国高校野球選手権福島大会

2回戦 双葉翔陽5 1

3回戦 勿来工業7 0
4回戦 x学法石川1 4

秋季東北地区高等学校野球福
島大会東北地区予選

1回戦 本宮6 1
2回戦 福島成蹊11 2

3回戦 福島明成8 1
準決勝 福島工業7 2

決勝 x福島商業2 3
秋季東北地区高等学校野球福
島大会

1回戦 郡山北工業4 0
2回戦 x日大東北0 2

2回戦 x日大東北0 2
秋季東北支部高校野球選手権
大会

2回戦 x福島南0 1
テニス部

男子 福島県高等学校体育大会
県北大会

学校対抗 優勝
個人戦シングルス

優勝 梅宮孝介
準優勝 香野拓也

準優勝 香野拓也
第3位 菅野拓也

第3位 菅野拓也
第6位 淡路雄翔

第6位 淡路雄翔
個人戦ダブルス

優勝 佐藤哲也・淡路雄翔
準優勝 香野拓哉・穴戸 慧

準優勝 香野拓哉・穴戸 慧
第6位 梅宮孝介・菅野拓也

第6位 梅宮孝介・菅野拓也
福島県高等学校体育大会

学校対抗 第3位
福島県総合体育大会

県北大会
男子 部シングルス

男子 部シングルス
優勝 梅宮孝介

優勝 梅宮孝介
準優勝 菅野拓也

佐藤智裕・穴戸 慧
第8位 小西拓哉・二瓶峻也

男子 部シングルス
優勝 鈴木悠人

男子 部ダブルス
優勝 佐藤勇希・角田勇貴

準優勝 鈴木悠人・三川将史
第3位 大河原奨平・清野剛史

第3位 大河原奨平・清野剛史
福島県総合体育大会

男子 部シングルス
ベスト8 鈴木悠人

男子 部シングルス
福島県高等学校新人体育大会

県北大会
男子 学校対抗 優勝

個人戦シングルス
優勝 菅野拓也

準優勝 佐藤智裕
第6位 二瓶峻也

第6位 二瓶峻也
福島県高等学校新人体育大会

男子 学校対抗 第3位
個人戦シングルス

第3位 梅宮孝介
春季ジュニアシングルス

春季ジュニアシングルス
テニス選手権大会

男子 18歳以下
第6位 梅宮孝介(東北大会出場)

第6位 梅宮孝介(東北大会出場)
春季ジュニアダブルステニス

春季ジュニアダブルステニス
選手権大会

男子 18歳以下
ベスト8

ベスト8
東北ジュニアテニス選手権大会

男子 18歳以下 シングルス
梅宮孝介 予選決勝敗退

東北ジュニアシングルス
テニス選手権大会

優勝 梅宮孝介
準優勝 菅野拓也

準優勝 菅野拓也
東北秋季ジュニアテニス
選手権大会

18歳以下シングルス
優勝 梅宮孝介
準優勝 佐藤智裕
16歳以下シングルス
優勝 三川将史
準優勝 清野剛史
ダブルス
優勝 梅宮孝介・菅野拓也
第3位 佐藤智裕・穴戸 慧
県ジュニアダブルステニス
選手権大会
第3位 梅宮孝介・菅野拓也
(東北大会出場)
県春季選抜ジュニア
シングルステニス選手権大会
第3位 梅宮孝介(東北大会出場)
女子
福島県高等学校体育大会
県北大大会
学校対抗 優勝
個人戦シングルス
第5位 諸橋希映
第6位 鴨原美穂
個人戦ダブルス
第3位 鴨原美穂・浅和 唯
第5位 諸橋希映・伊藤亜美
福島県高等学校体育大会
学校対抗 第3位
個人戦シングルス
第6位 諸橋希映
第8位 鴨原美穂
福島県総合体育大会県北大大会
女子 部シングルス
準優勝 諸橋希映
第8位 伊藤和佳奈
女子 部ダブルス
第3位 諸橋希映・伊藤和佳奈
女子 部シングルス

優勝 渡邊奈々美
女子 部ダブルス
優勝 渡邊奈々美・渡辺結香
福島県総合体育大会
女子 部シングルス
ベスト8 諸橋希映
女子 部ダブルス
ベスト8 諸橋希映・伊藤和佳奈
女子 部シングルス
第3位 渡邊奈々美
女子 部ダブルス
準優勝
渡邊奈々美・菅野真理江
福島県高等学校新人体育大会
県北大大会
学校対抗 第3位
個人戦シングルス
第6位 諸橋希映
県春季ジュニアダブルステニス
テニス選手権大会
女子18歳以下
準優勝 鴨原美穂・浅和 唯
女子16歳以下
準優勝 渡邊奈々美・菅野真理江
(成蹊高)
県春季ジュニアダブルステニス
選手権大会
女子16歳以下
準優勝 渡邊奈々美・菅野真理江
(成蹊高)(東北大会出場)
県北ジュニアシングルステニス
選手権大会
第3位 諸橋希映・渡邊奈々美
県北秋季ジュニアテニス

選手権大会
18歳以下シングルス
準優勝 渡邊奈々美
18歳以下ダブルス
準優勝 諸橋希映・伊藤和佳奈
県ジュニアダブルステニス
選手権大会
第6位 諸橋希映・伊藤和佳奈
県春季選抜ジュニア
シングルステニス選手権大会
第7位 諸橋希映
ハンドボール部
福島県高等学校体育大会
県北大大会
对本宮 15 19
対川俣 16 18
順位決定戦
対福島西 20 22
对本宮 11 21
福島県高等学校体育大会
第5位
対安積 17 30
福島県総合体育大会
1回戦敗退
県北大大会
对本宮 16 26
対福島工 30 17
順位決定戦
对本宮 20 15
福島県総合体育大会
12 34
対学法石川
福島県高等学校新人体育大会
1回戦敗退
県北大大会
对本宮 28
対聖光学院 37 27
対橋 47 24
対福島工 31 22
福島県高等学校新人体育大会
優勝
対安積 22 35
対福島 34 30

春季ハンドボール選手権大会
対福島商 17 40
対帝京安積 17 33
2回戦敗退
県北選手権大会
対信夫クラブ 15
対立子山クラブ 21 14
対S H C 19 18
対福島S G 16 28
第2位
福島市民体育祭
2回戦
対聖光 25 18
準決勝 対福商 20 16
決勝 对本宮 26 11
優勝
バドミントン部
男子
福島県高等学校体育大会
県北大大会
男子学校対抗戦 第2位
男子ダブルス
第3位 藤田・武田
第5位 菊地・佐久間
第9位 原田・諸根
男子シングルス
第2位 武田朋之
第5位 藤田晃輔
第13位 原田一樹
福島県高等学校体育大会
男子学校対抗戦
1回戦 3 0 白河実業
2回戦 1 3 湯本
男子ダブルス
藤田・武田 4回戦敗退
(ベスト16)
菊地・佐久間 2回戦敗退
原田・諸根 2回戦敗退
男子シングルス
武田朋之 2回戦敗退
藤田晃輔 2回戦敗退
原田一樹 1回戦敗退

福島県総合体育大会
県北大大会
男子ダブルス
第9位 諸根・武田
男子シングルス
第3位 武田朋之
福島県総合体育大会
諸根・武田 3回戦敗退
福島県高等学校新人体育大会
県北大大会
男子学校対抗戦 第2位
男子ダブルス
第2位 武田・柏木
男子シングルス
第1位 武田朋之
第13位 諸根 明
福島県高等学校新人体育大会
男子学校対抗戦
1回戦 0 3 原町
男子ダブルス
武田・柏木 2回戦敗退
男子シングルス
武田朋之 4回戦敗退
(ベスト16)
諸根 明 1回戦敗退
女子
福島県高等学校体育大会
県北大大会
女子学校対抗戦 第5位
女子ダブルス
第5位 菅野・小川
第9位 菅野・岩瀬
福島県高等学校体育大会
女子団体
1回戦 2 3 郡山
女子ダブルス
菅野・小川 3回戦敗退
菅野・岩瀬 3回戦敗退
福島県総合体育大会
県北大大会
女子ダブルス
第5位 菅野・菅野
福島県総合体育大会
女子ダブルス
菅野・菅野 4回戦敗退

福島東 84 54 東日大昌平
 第3位 福島東 68 54 OUTLAW
 2回戦 福島東 74 56 いちぎESTARS
 3回戦 福島東 63 75 福島教員A
 4回戦 福島東 63 75 福島教員A
 福島県高等学校新人体育大会
 県北大大会
 予選
 福島東 105 45 学福
 福島東 96 54 保原
 決勝リーグ
 福島東 73 56 福島商
 福島東 89 76 福島工
 福島東 71 65 福島
 第1位
 福島県高等学校新人体育大会
 2回戦
 福島東 85 50 白河実
 3回戦
 福島東 76 51 会津工
 準決勝
 福島東 76 61 郡山
 決勝
 福島東 58 48 福島工
 優勝(16年ぶり3回目)
 新人戦東北大会
 予選リーグ(Bブロック)
 1回戦
 福島東 62 55 横手清陵
 2回戦
 福島東 52 88 盛岡市立
 女子
 福島県高等学校体育大会
 県北大大会
 予選トーナメント(Cブロック)
 1回戦
 福島東 93 44 川俣
 2回戦
 福島東 70 78 福島商
 第5位
 福島県高等学校体育大会

2回戦 福島東 47 99 郡山商
 福島県総合体育大会県北大大会
 予選トーナメント
 1回戦
 福島東 59 50 桜の聖母
 2回戦
 福島東 52 45 本宮
 予選1位リーグ
 福島東 66 81 福島商
 福島東 66 49 福島
 5位(1~3位は推薦で県大会出場)
 福島県総合体育大会
 1回戦
 福島東 56 55 磐城
 2回戦
 福島東 44 61 若松商
 県高校選抜バスケットボール
 選手権大会県北予選
 1回戦
 福島東 67 49 福島北
 2回戦
 福島東 38 73 福島商
 県男女総合バスケットボール
 選手権大会
 1回戦
 福島東 43 69 FreeStyle
 福島県高等学校新人体育大会
 県北大大会
 予選
 福島東 51 47 福島北
 福島東 53 70 安達
 県大会出場決定トーナメント
 福島東 71 50 橘
 福島東 77 53 福島
 第5位
 福島県高等学校新人体育大会
 1回戦
 福島東 78 67 会津
 2回戦
 福島東 57 101 郡山商
 ハレーボール部
 男子
 福島県高等学校体育大会

県北大大会
 対福島西 2 0
 対学法福島 2 0
 対福島工業 0 2
 第2位
 福島県高等学校体育大会
 対磐城桜ヶ丘 2 0
 対日大東北 2 0
 対郡山北工業 0 2
 ベスト8
 福島県総合体育大会県北大大会
 対安達 2 0
 対二本松工業 2 0
 対福島北 2 0
 対学法福島 2 0
 対福島西 2 0
 第1位
 福島県総合体育大会
 対喜多方工業 2 0
 対相馬農業 2 0
 対白河 0 2
 ベスト8
 福島県高等学校新人体育大会
 県北大大会
 対福島北 2 0
 対福島商業 2 0
 対福島 2 0
 対聖光学院 2 0
 対保原 2 0
 対学法福島 2 0
 対福島工業 2 0
 第1位
 福島県高等学校新人体育大会
 対小野 2 0
 対白河 2 1
 対平工業 2 0
 対相馬 0 2
 第3位(FTV杯出場)
 FTV杯
 対郡山 2 0
 対湯本 0 2
 第3位
 福島県高等学校体育大会
 女子
 福島県高等学校体育大会
 県北大大会

対川俣 2 0
 対福島 1 2 0
 対桜の聖母 1 2
 対本宮 2 0
 対福島 2 0
 第9位
 福島県高等学校体育大会
 対大沼 2 1
 対双葉翔陽 2 0
 対郡女大附属 0 2
 3回戦敗退
 福島県総合体育大会県北大大会
 対聖光学院 0 2
 対保原 0 2
 対福島北 2 0
 第9位
 福島県高等学校新人体育大会
 県北大大会
 福東 0 2 聖光学院
 福東 0 2 保原
 福東 2 0 福島北
 順位決定トーナメント
 1回戦
 福東 1 2 福島西
 敗者戦
 福東 2 0 福島東稜
 第11位
 1年生大会
 対成蹊 2 0
 対安達 0 2
 対福島商業 1 2
 対聖光学院 0 2
 第5位
 卓球部
 男子
 福島県高等学校体育大会
 県北大大会
 団体戦 第8位
 個人戦 菅野 凌 第38位
 福島県高等学校体育大会
 団体戦 1回戦敗退
 個人戦
 菅野 凌 1回戦敗退
 福島県総合体育大会県北大大会
 団体戦 第6位

福島県総合体育大会
 団体戦 1回戦敗退
 全日本選手権東北地区大会
 シングルス
 萩原達也 第38位
 全日本選手権県大会
 シングルス
 萩原達也 2回戦敗退
 女子
 福島県高等学校体育大会
 県北大大会
 団体戦 第5位
 個人戦 ダブルス
 高橋美里・丹野尚美 第10位
 個人戦 シングルス
 高橋美里 第20位
 丹野尚美 第35位
 大竹麻衣子 第36位
 福島県高等学校体育大会
 団体戦 1回戦敗退
 個人戦 ダブルス
 高橋美里・丹野尚美 2回戦敗退
 個人戦 シングルス
 高橋美里 3回戦敗退
 丹野尚美 2回戦敗退
 大竹麻衣子 1回戦敗退
 福島県総合体育大会県北大大会
 団体戦 第8位
 個人戦 シングルス
 大竹麻衣子 第21位
 福島県総合体育大会
 団体戦 1回戦敗退
 個人戦 シングルス
 大竹麻衣子 1回戦敗退
 福島県高等学校新人体育大会
 県北大大会
 個人戦 シングルス
 菅野 汐 第22位
 大竹麻衣子 第24位
 福島県高等学校新人体育大会
 個人戦 シングルス
 菅野 汐 2回戦敗退
 大竹麻衣子 1回戦敗退

剣道部

全日本選手権東北地区大会
 シングルス
 大竹麻衣子 第23位
 齋藤 汐 第24位
 目黒梨沙 第34位
 全日本選手権県大会
 シングルス
 大竹麻衣子 3回戦敗退
 齋藤 汐 2回戦敗退
 目黒梨沙 1回戦敗退

福島県高等学校体育大会
 東北大会
 男子団体 第3位
 女子団体 第4位
 女子個人
 井上舞香 (2 2)
 ベスト8
 齋藤 和 (3 5)
 ベスト16
 福島県高等学校体育大会
 男子団体 準優勝
 女子団体 2回戦敗退
 女子個人
 齋藤 和 (3 5)
 第3位
 井上舞香 (2 2)
 2回戦敗退
 インターハイ東北大会
 男子団体 予選リーグ敗退
 女子個人
 齋藤 和 (3 5)
 1回戦敗退
 福島県総合体育大会東北大会
 男子団体 第6位
 女子団体 予選リーグ敗退
 男子個人
 高橋康太郎 (2 3)
 ベスト8
 女子個人
 井上舞香 (2 2)
 ベスト8
 福島県総合体育大会
 男子団体 1回戦敗退
 男子個人

高橋康太郎 (2 3)
 1回戦敗退
 女子個人
 齋藤 和 (3 5)
 2回戦敗退
 井上舞香 (2 2)
 1回戦敗退
 福島県高等学校新人体育大会
 東北大会
 男子団体 第6位
 女子団体 予選リーグ敗退
 男子個人
 高橋康太郎 (2 3)
 第7位
 女子個人
 井上舞香 (2 2)
 第7位
 福島県高等学校新人体育大会
 男子団体 ベスト16
 男子個人
 高橋康太郎 (2 3)
 2回戦敗退
 女子個人
 井上舞香 (2 2)
 2回戦敗退
 選抜大会東北大会
 男子予選リーグ 2勝1敗
 2位通過
 順位決定リーグ 2勝0敗
 4位
 女子予選リーグ 2敗
 敗退
 選抜大会県大会
 男子
 1回戦
 対昌平 1 1 本数勝ち
 2回戦
 対あさか開成 1 1
 ベスト16 本数負け

水泳部
 福島県高等学校体育大会
 東北大会
 出場種目
 予選通過・県大会出場

福島県高等学校体育大会
 100M自由形
 第6位入賞 菅野修平
 東北大会出場
 200M個人メドレー 塩原芳樹
 100M自由形 菊田了介
 200M背泳ぎ 塩原芳樹
 100M自由形 齋藤倫大
 100M背泳ぎ 寺島康平
 吉田雄基・寺島康平
 400M自由形
 武藤心平・齋藤倫大・鈴木伸吾
 50M自由形
 菅野修平・菊田了介
 福島県総合体育大会
 50M自由形
 吉田雄基・塩原芳樹・高野恭平・寺島康平・鈴木伸吾・眞島 慧
 武藤心平
 100M自由形
 吉田雄基・高野恭平・鈴木伸吾・眞島 慧・武藤心平
 200M自由形
 吉田雄基・鈴木伸吾
 50Mバタフライ 寺島康平
 100M背泳ぎ
 塩原芳樹・寺島康平
 400Mフリーリレー
 福島県高等学校新人体育大会
 100M自由形
 高野恭平・眞島 慧・吉田雄基
 100M背泳ぎ
 塩原芳樹・寺島康平・武藤心平
 50M自由形
 高野恭平・眞島 慧・寺島康平
 200M 鈴木伸吾・吉田雄基
 400M 鈴木伸吾
 400M R
 柔道部
 福島県高等学校体育大会
 東北大会
 男子団体 第8位
 女子団体 第1位
 男子個人

90kg級 第3位 佐藤 孝
 73kg級 第5位 北村源規
 女子個人
 78kg級 第1位 日下部典子
 70kg級 第1位 齋藤きょうか
 63kg級 第2位 佐藤季奈
 48kg級 第2位 後藤芽衣
 52kg級 第3位 山岸夏実
 福島県高等学校体育大会
 男子団体 予選リーグ敗退
 女子団体 第3位
 男子個人
 佐藤 孝 棄権
 北村源規 初戦敗退
 女子個人
 日下部典子 第1位
 (全国・東北大会出場)
 齋藤きょうか 初戦敗退
 佐藤季奈 初戦敗退
 後藤芽衣 初戦敗退
 山岸夏実 二回戦敗退
 第58回東北高等学校柔道大会
 女子個人
 日下部典子 第2位
 平成20年度全国高等学校柔道大会
 女子個人
 日下部典子 初戦敗退
 福島県総合体育大会東北大会
 男子個人
 中堅の部 第3位 佐藤 孝
 女子個人
 中堅の部 第2位 齋藤きょうか
 県大会出場者
 佐藤季奈・大津友佳・羽田紘乃・山岸夏実
 福島県総合体育大会
 県大会
 男子
 佐藤 孝 初戦敗退
 女子
 山岸夏実 ベスト8
 齋藤きょうか・佐藤季奈
 2回戦進出
 大津友佳 初戦敗退

羽田紘乃 初戦敗退
 福島県高等学校新人体育大会
 東北大会
 男子団体 第6位
 女子団体 第2位
 男子個人
 90kg級 佐藤 孝 第2位
 81kg級 馬場大成 第3位
 73kg級 佐藤耕一 第3位
 女子個人
 52kg級 山岸夏実 第1位
 52kg級 大津友佳 第2位
 57kg級 羽田紘乃 第3位
 福島県高等学校新人体育大会
 女子団体 初戦敗退
 男子個人
 佐藤 孝 初戦敗退
 馬場大成 初戦敗退
 佐藤耕一 初戦敗退
 女子個人
 山岸夏実 初戦敗退
 大津友佳 初戦敗退
 羽田紘乃 初戦敗退

山岳部
 福島県高等学校体育大会
 東北大会
 (5・8) (5・10)
 東吾妻山系 2P参加
 福島県高等学校体育大会
 (6・4) (6・7)
 安達太良山系 2P参加

ダンス部
 福島県高等学校第2回ダンス発表会開催

文化部
 合唱部
 白い歌青い歌コンサート 出演
 第6回定期演奏会 出演
 県北地区音楽祭 出演
 県音楽祭 出演
 うつくしまコバケン(小林研一郎)とその仲間たちオーケストラ 2008 福島公演 出演
 福島県合唱コンクール 銀賞

吹奏楽部
 全日本合唱コンクール 県代表
 東北支部大会 銅賞
 第20回全国生涯学習フェスティバル 出演
 福島県声楽アンサンブルコンテスト
 福島県高A(女声) 優良賞
 福島県高B(男声) 銀賞
 第9回ジョイントコンサート(福島東、福島北、郡山商、喜多方高)
 福島県吹奏楽コンクール 県北大賞
 一部 銀賞
 二部 金賞
 福島県アンサンブルコンテスト 金賞
 県北大賞
 クラリネット八重奏
 ウールフェンデン作曲
 「スリーダンス」
 サクソフオーン四重奏 金賞
 サンジュレ作曲
 「サクソフオーン四重奏 第一番より」 金賞
 打楽器三重奏
 山澤洋之作曲
 「月迷宮・大神」 金賞
 福島県アンサンブルコンテスト
 クラリネット八重奏 金賞
 サクソフオーン四重奏 銀賞
 打楽器三重奏 銀賞
 第25回定期演奏会 開催
 県北地区音楽祭 参加
 榎田朕之扶作曲「元禄」、和泉宏隆作曲
 「オームズ・オブ・ラブ」演奏
 きらめきレクチャーコンサート 参加
 県北吹奏楽新人演奏会 参加
写真部
 第27回福島県高等学校総合

書道部
 文化祭写真展 出品
 福島県高等学校文化連盟写真展
 専門部県北支部写真展
 優秀賞 1年 佐久間海斗
 佳作 1年 二宮亜紀
 県高校書道展 条幅の部
 優秀賞 2年 尾形優花子
 2年 渡辺 悠
 1年 渡部実和子
 福島県たなばた展
 団体賞 奨励学校賞
 個人賞
 銀河賞 2年 尾形優花子
 県総合文化祭 8名出品
 第53回福島県書きぞめ展
 団体賞 学校奨励賞
 個人賞
演劇部
 奨励賞 2年 鈴木博之
 県北地区高校演劇連盟
 春の発表会部 参加
 照明係担当
 県北地区高校演劇連盟
 秋のコンクール 参加
 照明係担当
美術部
 全国高文祭美術展
 入選 3年 阿部 礼
 平成20年度福島県美術総合展覧会
 入選 3年 佐藤しおり
 2年 塚原 茜
 2年 枝浪美咲
 平成20年度福島県高校生美術展
 推薦出品
 3年 佐藤しおり
 3年 佐々木優衣
 2年 塚原 茜
 2年 枝浪美咲
科学部
 平成20年度生徒理科研究
 発表会県北地区大会
 摺上川の河川調査 発表

平成21年度 部活動報告

●運動部

陸上競技部
 県高等学校体育大会
 男子
 100m 第3位 齋藤啓
 200m 第7位 齋藤啓
 4x100mR 第2位
 地引・野地・寺内・齋藤
 走高跳 第3位 阿部晃大
 1年300m 第8位 加藤拓磨
 1年4x100mR 第7位
 赤枝・服部・安達・佐藤
テニス部
 男子
 インターハイ県北大大会
 学校対抗 優勝
 2回戦 2-1 福島商
 準決勝 2-0 福島南
 決勝 2-0 福島工
 個人戦シングルス
 優勝 梅宮孝介
 準優勝 菅野拓也
 第7位 穴戸 慧
 第9位 二瓶峻也
 第11位 鈴木悠人
 個人戦ダブルス
 優勝 梅宮孝介・菅野拓也
 準優勝 穴戸 慧・佐藤智裕
 第9位 鈴木悠人・富塚 慶
 インターハイ県大会
 学校対抗 第3位
 1回戦 3-0 安積
 2回戦 2-0 積
 3回戦 2-0 会津
 準々決勝 1-2 平工
 個人戦シングルス
 ベスト16

個人戦ダブルス
 ベスト8
 梅宮孝介・菅野拓也
 県総合体育大会県北大大会
 男子 部シングルス
 優勝 田口太平
 準優勝 鈴木悠人
 第3位 三川将史・佐藤大樹
 第5位 角田勇貴
 県大会出場者 寺内優太、佐藤有輔、穴戸啓
同ダブルス
 準優勝 田口太平・角田勇貴
 第3位 鈴木悠人・寺内優太
 清野剛史・佐藤勇希
 第5位 三川将史・佐藤大樹
男子 部シングルス
 準優勝 荒川皓哉
 第3位 桑島貴嗣
同ダブルス
 優勝 荒川皓哉・桑島貴嗣
 第3位 野地大介・野地絃太
女子
 インターハイ県北大大会
 学校対抗 優勝
 1回戦 3-0 川俣
 準決勝 2-0 福島南
 決勝 2-1 橋
 個人戦シングルス
 第2位 諸橋希映
 第3位 渡邊奈々美
 個人戦ダブルス
 第2位
 第5位 諸橋希映・三浦依莉

渡邊奈々美・伊藤和佳奈
 インターハイ県大会
 学校対抗 第3位
 2回戦 2-1 平商
 3回戦 3-0 双葉
 準々決勝 0-2 日大東北
 3位決定戦 2-0 郡山
 個人戦シングルス
 ベスト16
 諸橋希映・渡邊奈々美
 個人戦ダブルス
 ベスト8
 諸橋希映・三浦依莉
 渡邊奈々美・伊藤和佳奈
 県総合体育大会県北大大会
 女子 部シングルス
 優勝 渡邊奈々美
 準優勝 三浦依莉
 第8位 高橋里沙
 県大会出場者 佐藤 愛
同ダブルス
 優勝 渡邊奈々美・三浦依莉
 第3位 高橋里沙・渡辺結香
女子 部シングルス
 準優勝 齋藤松実
同ダブルス
 優勝 齋藤松実・狩野佳奈
 第3位 菅野 菜・笠原聖子
ハンドボール部
 インターハイ県北大大会
 優勝
 1回戦 35 福島西
 2回戦 30 福島
 準決勝 28 本宮
 決勝 30 福島
 インターハイ県大会
 ベスト8
 1回戦 25 安積黎明
 2回戦 27 平工
 県総合体育大会県北大大会
 第5位

バドミントン部
 25 26 29
 4 本 聖
 27 福 宮 光
 島

男子
 県北高校体育大会
 男子学校対抗 第3位
 男子ダブルス
 第3位 武田・柏木
 男子シングルス
 優勝 武田朋之
 県高校体育大会
 男子学校対抗
 一回戦 0 3 尚志
 男子ダブルス
 武田・柏木 ベスト16
 男子シングルス
 武田朋之 二回戦敗退
 総体県北地区予選
 男子ダブルス
 第3位 武田・柏木
 男子シングルス
 第3位 武田朋之
 女子
 県北高校体育大会
 女子学校対抗 第3位
 女子ダブルス
 第5位 菅野・菅野
 小川・岩瀬
 第9位 高橋・三輪
 女子シングルス
 第9位 菅野朱里
 県高校体育大会
 女子学校対抗
 一回戦 3 2 磐城桜が丘
 二回戦 2 3 郡山商業
 女子ダブルス
 菅野・菅野 ベスト16
 小川・岩瀬 二回戦敗退
 高橋・三輪 二回戦敗退
 女子シングルス
 菅野朱里 二回戦敗退
 ソフトボール部
 県北高校体育大会
 福島東 8 5 福島

優勝
 県高校体育大会
 《予選リーグ》
 福島東 0 6 相馬
 福島東 3 12 いわき秀英
 福島東 4 10 小高工業
 県総合体育大会県北地区予選
 福島東 13 6 福島
 優勝
 サッカー部
 インターハイ県北大大会
 1回戦 3 0 福島明成
 2回戦 0 1 二本松工
 敗者復活戦
 2回戦 1 0 松韻
 3回戦 7 0 福商
 代表決定戦 1 2 聖光学院
 弓道部
 インターハイ地区予選
 男子個人
 第1位 深谷晃樹(2年)
 県大会出場
 飯沼 高(3年)、菅野智康
 (3年)、齋藤葉月(2年)
 女子個人
 第1位 山本絵梨花(3年)
 第4位 渡邊加奈子(3年)
 県大会出場
 渡辺 優(3年)
 男子団体
 第1位(菱沼康平、深谷晃
 樹、菅野智康、齋藤雄彦、
 飯沼 高、山崎勇貴、武田
 大志)
 女子団体
 第1位(山本絵梨花、齋藤
 夕貴、菅野麻衣、渡辺 優
 渡邊加奈子、大橋佳純、渡
 邊 舞)
 インターハイ県大会
 女子団体
 第2位(山本絵梨花、齋藤
 夕貴、菅野麻衣、渡辺 優
 渡邊加奈子、大橋佳純、渡
 邊 舞)

射道優秀賞
 県総合体育大会地区大会
 男子団体
 第2位(武田大志、齋藤葉
 月、深谷晃樹)
 男子個人
 第6位 武田大志
 バスケケットボール部
 男子
 県高校体育大会県北予選
 予選トーナメント
 1回戦 不戦勝
 2回戦 福島東 122 橘
 3回戦 福島東 107 28 本宮
 決勝トーナメント
 準決勝
 福島東 64 55 福島商業
 決勝
 福島東 67 61 福島
 優勝
 県高校体育大会
 一回戦 不戦勝
 二回戦 福島東 77 46 清陵情報
 三回戦 福島東 50 56 東陵
 ベスト8
 県総合体育大会県北予選
 一回戦
 福島東 78 50 福島北
 二回戦
 福島東 63 52 福島西
 準決勝
 福島東 72 31 保原
 決勝
 福島東 69 73 東稜
 地区推薦 4位
 女子
 県高校体育大会県北予選
 予選トーナメント
 1回戦 福島東 93 20 川俣
 2回戦 福島東 52 50 成蹊
 決勝トーナメント
 1回戦
 福島東 49 54 福島商業

3位決定戦
 福島東 44 82 安達
 第4位
 県高校体育大会
 一回戦
 福島東 54 51 湯本
 二回戦
 福島東 66 44 あさか開成
 三回戦
 福島東 40 87 郡山商業
 ベスト8
 県総合体育大会県北予選
 一回戦
 福島東 45 57 本宮
 二回戦
 福島東 23 115 東稜
 敗者復活
 福島東 61 70 橘
 バレーボール部
 男子
 県北高校体育大会
 福島東 2 0 福島
 福島東 1 2 聖光
 福島東 1 2 福島工業
 福島東 2 0 保原
 福島東 2 0 学福
 第3位
 県高校体育大会
 二回戦
 福島東 2 0 日大東北
 三回戦
 福島東 2 0 磐城
 準々決勝
 福島東 1 2 白河
 ベスト8
 県総合体育大会地区予選
 福島東 2 0 福西
 福島東 2 0 保原
 福島東 2 1 梁川
 福島東 0 2 聖光
 福島東 1 2 福島
 第4位
 女子
 県北高校体育大会
 福島東 2 0 明成

卓球部
 男子
 福島東 1 2 安達
 部リーグ2位リーグ戦へ
 福島東 2 0 本宮
 福島東 2 0 福島
 福島東 2 1 川俣
 7、10位決定戦へ
 福島東 2 1 聖母
 福島東 0 2 福島西
 第8位
 県高校体育大会
 一回戦
 福島東 2 1 学法石川
 二回戦
 福島東 2 0 小高工業
 三回戦
 福島東 1 2 会津学鳳
 ベスト16
 県総合体育大会地区予選
 予選リーグ
 福島東 2 0 聖母
 福島東 2 0 明成
 福島東 0 2 保原
 決勝トーナメント一回戦
 福島東 0 2 橘
 5、8位決定戦
 福島東 0 2 安達
 福島東 0 2 成蹊
 福島東 1 2 福西
 第8位
 卓球部
 男子
 高校大会県北予選
 二回戦 東 3 0 二本松工
 三回戦 東 1 3 福島工
 代表決定戦
 東 3 1 学法福島
 学校対抗 第6位
 個人戦シングルス
 菅野 凌 第25位
 佐藤拓真 第28位
 高校大会県大会
 学校対抗
 二回戦 東 0 3 福島高専
 個人戦シングルス
 菅野 凌 三回戦敗退

佐藤拓真 一回戦敗退
 県総合体育大会県北予選大会
 二回戦 東30 福島南
 三回戦 東13 福島工業
 代表決定戦 東31 橘
 シングルス
 菅野俊宏 第14位
 大河内裕史 第18位
 長沢智哉 第22位
 佐藤拓真 第25位
 以上県大会出場

女子
 高校大会県北予選
 学校対抗戦 2回戦敗退
 代表決定戦 敗退
 個人戦シングルス
 目黒梨沙(3年)が代表決定
 戦により県大会出場
 県総合体育大会県北予選大会
 学校対抗戦 二回戦敗退
 代表決定戦 敗退
 個人戦シングルス
 野地裕美(1年) 第20位

剣道部
 インターハイ県北大
 男子団体 第6位
 女子団体 第5位
 男子個人
 高橋康太郎(3年)
 加藤 曜(3年)
 関川 崇(3年)
 ベスト16
 女子個人
 萩原香澄(3年)
 清野紗緒里(2年)
 ベスト8
 井上舞香(3年)
 ベスト16
 インターハイ県大会
 男子団体
 一回戦 東50 郡山東
 二回戦 東04 若松商業
 女子団体
 一回戦 東04 郡山東
 二回戦 東04 若松商業
 一回戦 東04 郡山女子大附属


男子個人
 高橋康太郎 三回戦進出
 加藤 曜 二回戦敗退
 関川 崇 一回戦敗退
 女子個人
 萩原香澄 三回戦進出
 清野紗緒里 二回戦敗退
 井上舞香 一回戦敗退
 県総合体育大会県北予選大会
 男子団体 第6位
 女子団体 第5位

水泳部
 インターハイ県北大
 男子団体 県大会出場
 男子個人
 400M MR・400M R 県大会出場
 50M 自由形 寺島 武藤
 100M 自由形 吉田真鳥
 200M 自由形 鈴木
 400M 自由形 鈴木
 100M 背泳ぎ 塩原 武藤
 100M 個人メドレー 塩原
 女子団体 総合第3位入賞
 女子個人
 400M MR・400M R 県大会出場
 50M 自由形 斉藤 笠
 100M バタフライ 門馬、菅野
 100M 背泳ぎ 市川、斉藤
 200M バタフライ 菅野、門馬
 200M 自由形 市川

柔道部
 県北高校体育大会
 男子団体 第5位
 男子個人
 第2位 佐藤耕一
 第5位 馬場大成
 女子団体 優勝
 女子個人
 優勝 山岸夏実
 第2位 大津友佳
 第3位 羽田紘乃
 県高校体育大会
 男子団体 初戦敗退
 男子個人 初戦敗退
 佐藤耕一 初戦敗退

平成21年度在校生支援事業

1. 全国大会激励金 (550,000円)	
・バスケボール部	500,000円
・柔道部	20,000円
・美術部	30,000円
2. 部活動支援 (170,000円)	
・合唱部	50,000円
・ダンス部	20,000円
・美術部	30,000円
・吹奏楽部	50,000円
・演劇部	20,000円
3. 体育設備整備 (819,560円)	
・ウェット室備品 (バーベルシャフト)	117,600円
・テニスコート用山砂	127,890円
・冷凍庫	73,500円
・校庭用黒土、山砂	153,300円
・砂場シート	100,000円
・マット	124,000円
・エアロバイク2台	123,270円



馬場大成 初戦敗退
 女子団体 ベスト8
 女子個人
 山岸夏実 ベスト8
 大津友佳 ベスト8
 羽田紘乃 ベスト8
 県総合体育大会県北地区予選
 女子個人戦 優勝
 山岸夏実 第3位
 羽田紘乃 第3位
 (別な階級での成績です)

****ご注意下さい!****

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は
 024-531-1551 です。



野球部応援

平成21年度(28期生) 部活動を終えて

生徒会

生徒会役員として活動した日々は、とても充実したものでした。特に、今年は三年に一度の公開文化祭があり、また、記念すべき創立三〇周年にもあたりました。先輩方が築かれてきた伝統を、次の後輩たちに引き継いでいくのに大きな節目になる年であると思います。その年を三年生で迎えられることは、とても意義深いことでした。東桜祭の準備は想像していた以上の大変さでした。忙しい状況の中、先生や生徒、生徒会役員が協力し合い運営することで連帯感が生まれ、絆が一層強まりました。東高生らしい活気ある東桜祭は、高校3年間で一番印象深い思い出となりました。

生徒会に所属してきた約一年半の間、時間の速さを感じました。生徒会長として行事を運営することは、責任も大きく大変でした。しかし、多くの人に助けられ、乗り越えていくことで現在の私があります。活動を通じて学んだことを、今後の自分の人生に生かしていきたいです。

野球部

(鈴木 理沙)

七月十八日、大きなサイレンが僕らの夏の終わりを告げました。とても短く、あっという間の高校野球最後の夏でした。

「泥くさく」を合い言葉にスタートした、このチーム。目標に向かってひたすらにボールを追った毎日でした。時には、結果のない苛立ちでぶつかるところもありましたが、皆で頑張ってきました。最後の試合、聖光学院戦。負けてしまった後悔はありませんが、一生忘れられない試合となりました。今までバツクアップをしてきて下さった関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは日が傾くのが早くなり気温も下がっていきませんが、後輩達には厳しい冬を乗り越えて、来年こそは優勝旗を持ち帰ってきてくれることを期待しています。

(三浦 崇悦)

サッカー部

去る高校総体地区予選において私たち東校サッカー部は、実に二十年ぶりとなる地区大会敗退という屈辱を受けました。誰も予想していなかった敗戦だっ

ただけに、素直に自分達の甘さを受け止められない自分が居ました。そしてこの敗戦を機に、今まで二年間一緒にグラウンドでプレーしてきた三年の大半が引退を決意しました。大きな衝撃、そして深い悲しみではありましたが、悔しい想いを抱いて引退していった仲間の気持ちを背負って戦えるということ、いかにアドバンテージへと変えていけるかが大切だと思えます。

さて選手権開幕まで二ヶ月を切った今、昨年あと一歩で優勝を逃した悔しさを晴らす為にも、そしてお世話になった方々への恩返しのためにも、私達に課せられた使命は「勝利」だと思っています。まずはこの夏を全力で乗り切ります。

(兼子次郎)

卓球部

卓球部に入部して二年半。あっという間に時間は過ぎ、今は、大学受験に向け、受験勉強という辛い日々を送っています。

二年生の夏、先輩達が引退し、部長をまかされ、辛いことや苦しいこともたくさんありました。最後まで部長をやり遂げることができたのは、仲間たちや顧問の先生方のおかげだと思っています。

最後の大会の高体連東北地区予選で、団体で今まで勝つことができなかった相手に勝ち、県大会出場が決まったときのことには忘れられません。

この部活を通して、目標に向かって努力すること、仲間と協力することの大切さを知ることができました。最後に、顧問の渡辺吉城先生、川久保真子先生、そして、一年間こんな頼りない部長についてきてくれたみんな、本当にありがとうございました。

(菅野 凌)

陸上競技部

部活動を引退して一ヶ月弱が経ちました。まだ部活動をやっていた頃は受験勉強に気持ちを切り換えていけるかとても不安でした。部活動に未練がないと言えは嘘になりますが、受験勉強を始めた今では充実した毎日を送れていると思います。先生方の熱心かつ丁寧なご指導や学習しやすい環境も理由の一つだと思います。しかし、それに加えて部活動で培った体力はもちらんのこと、集中力や辛くても逆境に負けない強い気持ちが大いにプラスになっていると思います。また、部活動を通して、たくさんのことを学ぶことができました。それは受験だけでは

なく、今後の人生においても自らの大きな財産になると思います。

私は大学へ進学しても競技を続けるつもりでいます。そのためにも、受験への長いようでの短い期間を一日一日無駄にせず、勉強に打ち込んでいきたいと思っています。

(野地 貴仁)

女子バスケットボール部

部活動を引退し数ヶ月が経ちました。課外のとぎ聞こえてくるバスケット部のアップの声を聞くとなりにバスケットがしたくなりま

す。

今思い返してみると、一日の楽しみが、部活 と思えるほど部活という時間は、かけがえない大切な時間だったと思います。結束力に欠けチームがまとまらず、悩んだ時期もありました。しかしそれを乗り越え最後のインターハイ県北予選ではチー



ムが一丸となりベスト4に入る
ことができました。これも支え
て下さった先生、保護者、応援
して下さいの方々のおかげであ
り、あの超個人的なメンバーと
切磋琢磨した日々があったから
だと思えます。

私達三年生は部活動での経験
を生かし、それぞれの目標を達
成できるように一層努力し
ていきたいと思えます。

(齋藤 美佳)

男子バスケットボール部

インターハイ出場！僕らが新
チームになって掲げた目標だ。
それからのこと、夏の辛い走り
込みをはじめ、日々の練習にも
切磋琢磨して取り組んだ。「結
果はあとからついてくる。」こ
の言葉を信じて、勝つために頑
張ってきた。そして迎えたイン
ターハイ予選。それまで公式戦
では県内不敗だった。しかし、
最後の大会、目標を達成するた
めのこの大会で、結果はベスト
8……。負けた。

あのときの悔しさは一生忘れ
られない。負けて本気で泣けた
のは、精一杯頑張ってきた証だ
と思う。

これから先、沢山の困難が待っ
ているだろう。そんなとき、こ
の経験を活かすことが大切だと

思う。

最後に、熱心にご指導してく
ださった先生、支えてくださっ
た保護者の方、OBの方々、そ
して最高のチームメイトに感謝
します。本当にありがとうございました。

(熊坂 仁志)

柔道部

僕たちの代は、最初のころ負
けてばかりでした。しかし、毎
日練習をがんばってきたおかげ
で、みんな大きく成長すること
ができました。最後の大会では
良い結果を残せませんでした。が、
今まで練習してきたことを出せ
たと思つて悔いはありません。
柔道部で過ごした日々は、今
思い返してみると短かったよう
に思います。つらいこともたく
さんあつたけど、それを乗り越
えてくれたのは、先生や先輩、
部員みんなのおかげだと思ひ
ます。本当に、東高柔道部で良
かったです。

(佐藤 耕一)

剣道部

私達のスタートは決して楽な
ものではなかった。男子は偉大
な先輩方が引退し、試合経験が
他のチームに比べて圧倒的に少
ない状況。女子は個人の力はあ

るものの、人数が集まらず、団
体戦で結果を残すことができな
い。こんな厳しい状況に負ける
ことなく、私達は顧問の佐久間
先生の指導のもと必死に頭を使っ
て考え、そして技を磨いた。

最後のインターハイ県大会予
選では、男女共に個人、団体で
名の通った選手を相手に堂々と
した試合をすることができた。

ここまでこれたのは、今までご
指導して下さいました先生方や先輩
方、保護者の方々のおかげだ。
これから私達は福島東高校で剣
道ができたことを誇りに思い、
次の目標に向かって突き進んで
いこうと思う。

(高橋康太郎)

弓道部

部長に任命された時、僕は不
安だった。自分にこの人数をま
とめ上げることが出来るだろう
か。しかし、その不安はすぐ無
くなった。部員一人一人が高い
意識をもち、より良い部にしよ
うと自ら動いてくれた。僕の役
目は少なかつた。皆が今のすば
らしい部をつくり上げたことに、

改めて感謝したい。
弓道部に入り、僕は人との繋
がりや体験した。先輩方は親身
に接していただき、心を開ける
存在だった。そして弓道への思

いを受けとった。その思いが生
きていたからこそ、僕は毎日
の練習の中、かけがえのない仲
間になれた。僕達が引退した今、
この思いは後輩達に受け継がれ
ているように思える。後輩達は
毎日真剣に、かつ楽しそうに弓
を引いている。来年の大会に期
待できる自慢の後輩だ。また、
他校との合同練習もたくさんし
た。お互い仲間になっただけで
なく、良い好敵手にもなった。
一緒に遠征した時は、同じ福島
県の誇りの下、他県の強校とぶ
つかった。大会では互いに本気
で勝負できる楽しさと緊張を味
わえた。最後に先生方には大変
お世話になった。射形に関する
的確なアドバイス、そして様々
な相談をきいてもらいました。
先生への相談はとてもし助けにな
り、さらにこれからの人生にも
プラスになると思っています。
一年半弓道部で活動し、僕は
人間的に大きく成長したと思つた。
後輩達にも、これからも本気で
弓を引き、心も大きく成長させ
てほしい。先輩からの言葉を胸
に、道場小さくても、屋根がな
くても、俺達はやれるんだって
所を、全国に知らしめて下さい。
『全力東弓』!!

(齋藤 雄彦)

女子バレーボール部

「バックが軽くなつたんだよ
ね」県大会が終わった翌朝、学
校で顔を合わせた仲間は口々に
そう言った。駐輪場から昇降口
に向かうことにも違和感を感じ
ずにはいられなかつた。それ程
に、私たちの生活の中心には部
活があつた。

ベスト8をかけたインターハ
イ県大会。敗れ、目標だったベ
スト8には届かなかつたが、そ
れまで結果を残せずに落ち込ん
でいた私たちにとってそれは絶
対に忘れることができない試合
になつた。

正直、苦しい時期が長かつた
が、それを乗り越えることがで
きたのは、喜怒哀楽を共有して
きた仲間の存在があつたからだ。
後輩たちには今以上に仲間を信
じて諦めずに頑張つてほしい。

最後にいつも応援して下さい
た保護者の皆様、友人、最後ま
で諦めずにご指導下さつた中村
先生、本当にありがとうございました。

(根本 晴日)

女子バドミントン部

私が本格的にバドミントンを
始めたのは小学生の時でした。
それからずっと続けてきたバド

ミントンを引退するなんて、本当に考えられなかったです。それほど、私にとってバドミントンは大切なものなのです。

東高校でのバドミントン生活は、言葉で上手く言い表せないほど多くのことを感じ、学び、成長することができました。苦しかったこと、悩んだことも容易に頭に浮かびます。でもそれと共に浮かんでくるのはやはり周りの人の助けでした。今でも憧れの先輩方、かわいい後輩達、顧問の先生方、そして何よりも三年生の仲間。今まで支えてくれてありがとう。私の青春はみんなと過ごした日々でした。
頼りない部長から先輩に伝えたいことは、バドミントンの楽しさを存分に見出してほしいということ。思い出たくさん作ってね。
(菅野 朱里)

男子バドミントン部

バドミントン部に入って、僕は、いろいろな経験をした。初めて先輩とダブルスを組んで大会に出たり、個人戦で初めて県大会に出場したりと今までの僕にはなかったことがたくさん起きた。特に、心に残っていることは、僕が部長になったことだ。僕は、やったことのない部長の

仕事にとっても苦しんだ。部員全員をまとめたり、練習メニューを考えたり、本当に僕の重荷だった。しかし、そんな僕が部長を支えてくれたからだ。仲間が、僕を支えてくれたからだ。仲間がいたから、最後までがんばってこれたと思う。そんな最高の仲間とバドミントンができたことが、高校生活の一番の思い出だと思う。

最後に、いつも影ながら、僕たちを支えてくれた顧問の先生方、こんな僕に最後までついてきてくれたバドミントン部のみんな、三年間ありがとうございました。
(諸根 明)

女子テニス部

部活動を引退して、今一番に思うことは、最後までやってこれて良かったということです。

東高校に入学して、初めて硬式テニスに出会ってからのというもの、私の生活は部活動中心に回っていたような気がします。硬式テニスのおもしろさに夢中になる一方で、辛いことや苦しいこともたくさん経験しました。でも、そんな時期を乗り越えて、最後の高体連で東北大会に出場できたのは、顧問の先生を始め、女子テニス部・男子テニス部の

部員たち、両親、その他たくさんの方々の声援あつてのことだと思えます。東北大会を決める大事な試合の時、雨の中必死に応援してくれている仲間たちを見て、勇気づけられもしたし、あらためて東高のテニス部で良かったと感じられる瞬間でもありました。テニスを通じてすごくいい仲間たちに出会えたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

水泳部

水泳部として過ごした二年半はとても充実していました。最後の大会は部員全員が県大会出場という良い結果で終えることができました。部員一人一人が目標を持ち、自己ベストに挑み続けた成果だと思います。受験勉強も水泳と同じように自分と戦う姿勢を忘れず努力していきたいと思えます。

水泳部は部員があまり多くなく、特に僕達の学年は二人しかいませんでした。でも、だからこそ先輩後輩関係なくみんなを支えあい協力しあつて活動してきたことで、僕はたくさんのご不安だったときからずっと面倒を見てくれた先輩方、頼りない

部長についてきてくれた後輩、支えてくれた先生方や保護者、そして二年半一緒に部活に励んできた相棒には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

ハンドボール部

目標に向かって汗を流したグラウンド、体育館での練習。仲間と共に味わった勝利の喜び。つらかった2分IN。部活動を引退して数ヶ月が経つた今でも、鮮明に覚えています。

ハンド部として活動していた頃、楽しいこともあつた反面、つらいこともたくさんありました。それでも、最後まで部活動を続けることができたのは、熱心に指導してくれた先生、要領の悪い僕を支えてくれた仲間、保護者の方々のおかげです。本当に感謝しています。最後の大会、負けて悔しい思いをしましたが、ハンドボールを続けてきたことに後悔はなく、ハンドボールをやった良かったと感じています。
最後になりましたが、福島東ハンドボール部を応援して下さいました。
(山田 均)

ソフトボール部

部活動を引退し、数ヶ月が経ちました。僕達の代は昨年の先輩のように特になんかぬけていたような選手はいませんでした。練習や試合を通じ、たくさんの方を教えてもらいました。僕自身、ケガで苦しんだ時期もあり、つらく逃げだしたいと思う事もありました。けれども、こうやって続けてこれたのは先生をはじめ、部員がいたからだと思います。そして練習を支えてくれた方に本当に感謝します。

これからは受験に向けて、これまでの経験を活かし、自分との戦いに負けないよう頑張っていきたいです。
最後に、三年間本当にありがとうございました。

演劇部

我々演劇部は大会らしい大会ではなく、高校での発表会のようなものであった。余談だが、今この原稿を書いている私、菅野良太は引退していない。故に、約半年の活動を振り返ってみて発表会前の事を書くと思う。この部活に入部したのが五月半ばぐらいだった気がする。入部

したときは素人に近い三年生三人、二年生一人、かなり長く演劇部に携わってきた三年部長の五人がいた。その後、新たに一年生三人が入り計九人の部となった。人数が少なかつたため私は次の演劇のキャストに決まった。発表までの約一カ月の間、部員全員が協力して演劇成功を目指した。大道具作りや立ち稽古など忙しい中、発表日になった。キャスト、裏方が協力して十五分間の演劇をやりとげた。みんなで完成させた演劇は私の心の中に残る大切な思い出となった。

(菅野 良太)

合唱部

「こんにちは!!いつもにぎやか合唱部です!!」私はコンサートのプログラムの紹介でそう書き出すことが多かった。本当にそうだから。欠かさないあいさつ、絶えない歌声と笑い声、小さな対立でも起これば「話合おう。」そう言える誰かがいて、真剣にぶつかり合える仲間がいて、東高合唱部の男女、学年を問わないその仲の良さは簡単には手に入らないかけがえのないものだろう。そしてそんな仲間と私たちはコンクールに臨んだ。ふり返れば、今年のコンクールは過酷だった。自由曲の「藤

壺」リズムとの戦い。三年合唱

を続けてきた私たちですらつらいと思ったそれを経験の浅い一年生はどう思っただろうか。定期演奏会を終え、コンクールに向けて本格的な曲作りをしている中、毎日部活終了後もほぼ全員が残って自主練する姿に私は感動したのを覚えている。そんな私たち全員の実力は実を結び、結果、東北大会へのキップを手に入れた。しかし、賞は銀賞。私たちは全国を目標にしているだけに、悔しさを感じた。まだやれる、もっと良い演奏ができる、そんな思いを持った熱い目を誰かがしていた。去年も同じ結果で東北大会に行ったが、全員がこんな目をしていただけではないなかつただけに、驚き、そして大きな喜びを私は感じた。

(高橋 理央)

美術部

東高での楽しい思い出の多くは、部活の皆とのものだと思つ。毎日の部活、桜美展、研修旅行、新人部員歓迎会など、全て鮮や

かに残っている。

美術部での3年間の活動の中で学んだことは、「本気」の意味だと思つ。部活は楽しい事だけではなかつた。美大を目指している今、自分がどれほど甘くいい加減なのか知り始めている。「学んだこと」と言つたが、今はまだ学んでいる途中の段階だ。これから卒業まで、自分が「本気」になったと言えるように頑張りたい。

(枝波 美咲)

写真部

写真部は男子二名、女子六名の計八名で活動しています。皆同じ学年である為、文化祭や写真展前の話し合いでは様々な意見が出されます。仲が良いからこそ、こんな風に意見のやり取りができたんだと、一年半活動してきて思つようになりました。年に一回、撮影会がありました。は大内宿へ、今年は白石城へ行ってきました。写真家の方からうまく写真を撮るにはどうしたらよいか、写真の基本的な事から、シャッターを押す時の心構えなども教わります。この撮影会で撮つた写真は文化祭で展示しま

す。

普段は白黒フィルムを現像したりもします。暗室の中でフィルムを現像液につける作業は難しいですがうまくできたときはやりがいがあります。

これからも個人で写真を撮りながら、文化祭や写真展の時には協力していきたいと思つています。

(鈴木明香里)

社会部

社会部のこれまでを振り返ると、とても不思議な感じがした。二年間社会部に所属しているが、部員は多い時で二人、たいていは一人であつた。そんな、こともあつて、活発な活動はしていない状態である。本来社会部は自らのテーマに沿って自主的に研究に取り組む部である。過去にそんな先輩方の輝かしい活躍がある。今後、部員の数を増やし、また顧問の先生と協力しながら、積極的な活動をしていきたい。

(佐藤 亘)

科学部

今年の科学部は私が入学してからの三年間の中でも最も有意義に活動できるだろう。三年に一度の公開文化祭で発表するために必要なものを集めたり、今

年で三度目となる河川調査、月に一度ほどの生物室の水槽の掃除をしたりと去年と比べても明らかに活動も多くなり有意義に活動できている。

私たち三年生は課外などもあり計画を立てるための話し合いに混ざることが難しいが、二年生たちもうまく計画を引き継いでくれたので、きっと文化祭並びに部の大会での発表は成功するだろう。一年生の人数も部員数が倍になるくらいいるため今後も様々な種類や大きな規模の実験ができるはずだ。科学部のさらなる発展と学校での活躍を信じている。

(佐藤 遼一)

書道部

書道部になって、二年目になりました。橋本先生のご指導のもと、楽しく活動をしてきました。

基本的に週一ペースで、展覧会出品を目的とした作品制作をしています。各個人のペースで活動をしているため、なかなか全員がそろつて事は少なかつたように思われます。それでも、和気藹々(あいあい)と活動しています。

昨年は書道部初の研修旅行で東京に行き、相田みつを美術館

や、書道展に行き見聞を広めてきました。

先生や先輩方には大変お世話になりました。長いようで短い三年間の中で、みんなで積み上げてきた歴史が、続いていくことを嬉しく思います。

三年間ありがとうございました。

(鈴木 麻友)

英語同好会

私が同好会に入って初めの頃、自分の言いたい事を英語で表現できるかや、みんなで楽しく活動できるかがとても不安だった。しかし、その不安はすぐなくなりました。入部したとき、先輩たちやブレント先生、大槻先生が温かく迎えてくれました。とてもうれしかったです。

活動は、主にブレント先生と英語でコミュニケーションをとったりいろいろな外国の写真を見たりします。たくさん国の文化も知ることができてとても楽しいです。そしてクリスマスには、クリスマス会というのをやり、外国の料理を作ったりしてとても盛り上がりがあります。

英語同好会は、人数が少ない中で活動していますが、みんな仲が良く楽しい部活です。そしてもっと活動を増やしていきたいです。

(鈴木 秀歩)

放送委員会

(小林 由季)

たいです。

僕は三年間放送委員を務めたが、僕の高校生活においてこの委員会での活動ほど充実した時はなかったと断言できます。なにしろ我が委員会は今年(平成二十一年)にいきなり表舞台に現れて全国出場し、校門前に堂々と置かれていた看板を「祝・放送委員会」の文字で独占。これ以上ない名誉を得ることが出来ました。思えば昨年一昨年頃にはその名さえもよく知られず、ただ「放送機器の管理をしている」としか認識されていなかった我々でした。確かに今までは目立った活動をしていなかったのは否めませんが……。しかし今年はずいぶん。普段は知られていない裏の活動「ラジオドラマ制作」で全国大会進出。ついに闇の活動集団だった我々が明るみに出ることとなったわけです。運動部や吹奏楽、合唱などレベルの高い部活が多い東高校ですが、我々のようにあまり知られていないような所にも、けっこうすごい部活があるということも、是非知っていただきたいものです。

応援団

応援団を三年間続け、様々な事を経験し、学んだ。

一年の四月、俺は応援団に入った。正直なところ、当時は楽しかったことより辛かった事の方が多い。応援団に入ったことを後悔した時何度もある。しかし、試合で勝った時の何とも言い表せない喜びと達成感を経験すると、そんな思いは無くなった。だが、時が過ぎるのは早く、二年生の穂波先輩とまだまだ未熟な自分の二人だけを残し、三年生の先輩は引退してしまった。それからは、穂波先輩に指導をしていただいた。十二月には後に團長となる佐久間裕人が加わり、三人での活動となった。俺はこの先、心身共に鍛えられた気が遠退くような真夏や、足や指の感覚が無くなるような真冬での練習を忘れることは無いだろう。

そして月日は流れ、穂波先輩も引退し、新しく團員や助っ人が入り臨んだ三年の夏、我が東高は順調に勝ち進み、ついに「強豪」聖光学院との試合を迎えた。しかし東高の善戦も実らず、負けてしまった。球場を出る時野球部の保護者の方々は、「ありがとうとね」「お疲れ様」と言っ

て拍手をしてくださいました。自分はその「押忍」と返す事ができなかった。応援団に入っただけで成長したと思っただけなのに、何もできない自分の無力さを痛感した。

応援団に入って学んだことは、ここに書ききれないほど多い。後輩には、このすばらしい東高

と応援団の伝統を守り続けてほしいと思う。

最後に、これまで応援団を理解し、温かく見守って下さった方々、本当に有り難うございました。そしてこれから東高応援団をよろしく願います。

(八巻 孝行)



旧職員あいつし

阿部 正行

三十七年間の教員生活、その最終コーナーの八年間を福島東高校で勤務しました。授業以外でも生徒諸君と直接接する生徒会顧問や各部の試合の応援を通して多方面の生徒の活動の場を見られる応援委員会、寝食を共に大山脈に分け入り山に登る山岳部顧問と恵まりました。

生徒会顧問時代には公開文化祭が二度あり、個性豊かな役員諸君のパワーに驚かされました。応援委員会の野球応援では三年前の夏、あづま球場での四回戦、シードの聖光を破った試合は痛快でした。選手、応援団一体となり、手にした無欲の勝利だと思えます。

サッカーの三年連続全国大会出場時の貸切バスでの埼玉日帰

平成21年度 転出者

Table with 3 columns: 職名, 氏名, 転出先. Lists staff departures including school principals, teachers, and administrative staff.

平成21年度 転入者

Table with 4 columns: 職名, 氏名, 前勤務先, 教科. Lists staff arrivals with their previous workplaces and subjects.

平成21年度 教育実習生 (同窓生のみ)

Table with 4 columns: 氏名, 期生, 氏名, 期生. Lists student teachers and their periods.

でもあります。

中村 康伸

離任式の時、壇上で話をしていたら、涙が出てきた。下に降りて、生徒や卒業生の顔を見たら涙が止まらなくなった。抱えきれないほどの花束や心のこもった手紙などを頂き、とてもうれしかった。

担任として三度卒業生を出すことができ、先生方、保護者の皆様、そして生徒諸君に感謝している。スポーツ大会や文化祭での生き生きとした姿、受験モードになり必死に学習している姿、大学等に合格し報告に来た時の笑顔など忘れることはできない。

バスケット顧問として、女子の県総体ベスト4や新人戦ベスト8など、生徒達のおかげでいい思い出ができた。大逆転で桜の聖母に勝ち県大会に出場できたこと、延長戦で相馬東に勝った

こと、白河旭にリベンジし県ベスト4になったこと、思い出深い試合がたくさんある。男子の試合では平成十八年度県高体連準決勝の福高戦である。優勝候補相手に楽勝ペースから一気に苦しい展開になったが、踏ん張り勝利をつかみとった。その勢いで県優勝、全国大会初勝利ができた。生徒達のおかげで二度の全国大会出場という貴重な経験をすることができた。

東高生は「目標に向かって挑戦する」ことができ、「真面目に努力する」ことができる生徒であるということを感動して感じた。それが東高の良さであると思う。

十二年間の福島東高校での教員生活は私にとって誇りであり最高の思い出です。

編集後記

十月一日発行予定の同窓会報が毎年少しづつ遅れ、一昨年の四号が十一月、去年の五号が十二月発送でした。ところが今年九月発行。すばらしい？

そんな事務局の裏事情はともかく、この会報で後輩たちの活躍や同窓生の状況をご覧になっていかがでしょうか？何事にも一生懸命な福島東高校の伝統を守っている東高生のお話を紹介することができれば幸いです。

今年創立三〇周年になり、同窓会としてももっと学校を支援していけるような組織作りを確立していきたいと思えます。九月一日現在のニュースでは新型インフルエンザの脅威や民主党による政権交代などが取り上げられ、世間は大きな時代の変化を見せていますが、福島東高校同窓会は時代に流されず、揺るぎない愛校心をもってしっかりと母校を見つめていきたいと思えます。今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。